

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 3月
(第9 ~ 13週)

発行年月日 : 平成23年(2011年) 4月18日
発行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}	
		1～2月		3月		1～12月				1～2月		3月		1～12月	
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	133	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		0	1	0	0	0	4	
	ペスト	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	2		鼻疽	0	0	0	0	0	0
	結核	46	3,452	36	2,855	253	26,704		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	1	0	10		ボツリヌス症	0	2	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	30	2	28	2	235		マラリア	0	6	0	5	0	76
	腸管出血性大腸菌感染症	0	120	0	60	66	4,131		野兔病	0	0	0	0	0	0
	腸チフス	0	1	0	1	0	32	ライム病	0	0	0	1	0	13	
	パラチフス	0	5	0	3	1	21	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	10	0	6	0	66	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	類鼻疽	0	0	0	0	0	4	
	A型肝炎	0	74	0	20	3	346	レジオネラ症	3	81	0	41	10	751	
	エキノコックス症	0	5	0	3	0	17	レプトスピラ症	0	1	0	1	0	20	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	
	オウム病	0	1	0	6	1	11	アメーバ赤痢	1	110	0	59	7	845	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	ウイルス性肝炎	1	38	0	23	3	222	
	回帰熱	0	0	0	0	0	1	急性脳炎	0	66	0	26	1	241	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	クリプトスポリジウム症	0	2	0	1	0	16	
	Q熱	0	0	0	0	0	2	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	11	0	15	2	171	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	1	41	0	17	3	127	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1	後天性免疫不全症候群	1	205	0	108	1	1,549	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	ジアルジア症	0	12	0	5	1	80	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	1	0	7	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	梅毒	2	92	0	67	9	621	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	破傷風	1	4	0	11	0	106	
	チクングニア熱 ^(*)	0	3	0	0	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	つつが虫病	0	34	0	7	2	406	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	8	0	4	2	121	
	デング熱	1	17	0	11	2	245	風しん	0	16	0	25	5	89	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	麻しん	0	65	0	28	1	455	

*1 感染症発生動向調査暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成23年3月5日現在)

(*) : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - : 未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (3月)

< 結核 > 36名

性別: 男性 19名、女性 17名
 類型: 患者 28名
 無症状病原体保有者 8名
 病型: 肺結核 20名
 その他の結核 8名
 無症状病原体保有者 8名

< 細菌性赤痢 > 男性 9歳、女性 36歳
 推定感染経路は経口感染および不明
 で、推定感染地域は、インドおよび日本国
 内です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

3月の概要

<インフルエンザ>

第5～8週(1/31～2/27)には減少傾向を示していましたが、第9週(2/28～3/6)に再び増加し、定点当たり患者数は11.89となりました。その後、減少傾向を示し、第13週(3/28～4/3)の定点当たり患者数は8.38となりました。第4週(4/24～4/30)に発令されたインフルエンザ警報は、第13週に警報の解除基準に該当したため、9週間ぶりに解除されました。また、保健所管内別の発生状況では、第13週に、警報終息基準値(定点当たり患者数 10.00)を超えていたのは甲賀保健所管内のみで、高島保健所管内では、再び注意報発生基準値(定点当たり患者数 10.00)を超えていました。インフルエンザの発生状況については、下記グラフに示すとおりです。

<小児科定点疾患>

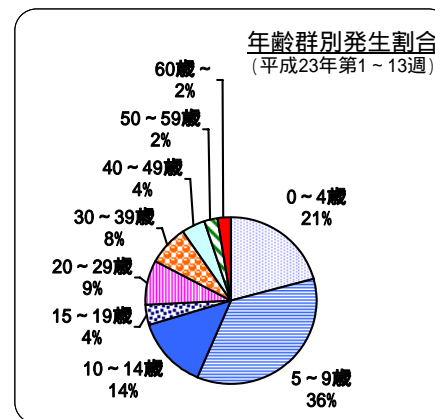
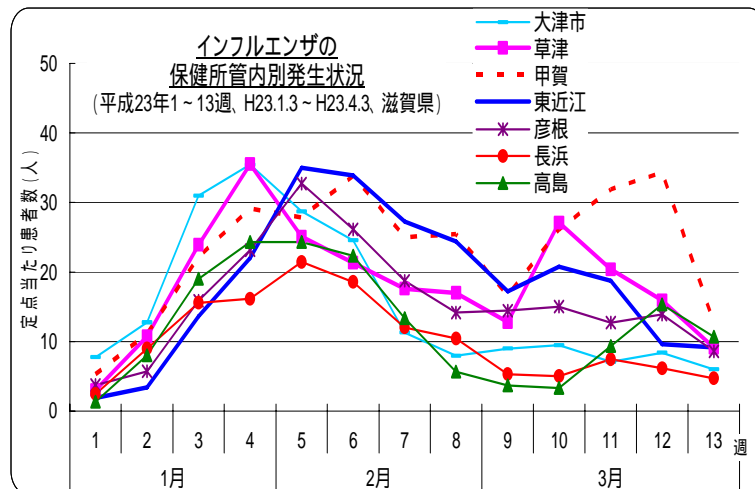
大部分の疾患で先月より増加し、減少した疾患はRSウイルス感染症のみです。特に、大幅に増加した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、A群溶レン菌咽頭炎、手足口病およびヘルパンギーナです(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

各疾患の保健所管内別発生状況では、伝染性紅斑(リンゴ病)は甲賀、ヘルパンギーナは高島および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は甲賀、彦根からの報告が多くなっていました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりやや増加し、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎は先月より増加し、東近江保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は、大津市保健所管内からの報告がやや多くなっていました。細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

インフルエンザの発生状況



<各定点の対象疾患>

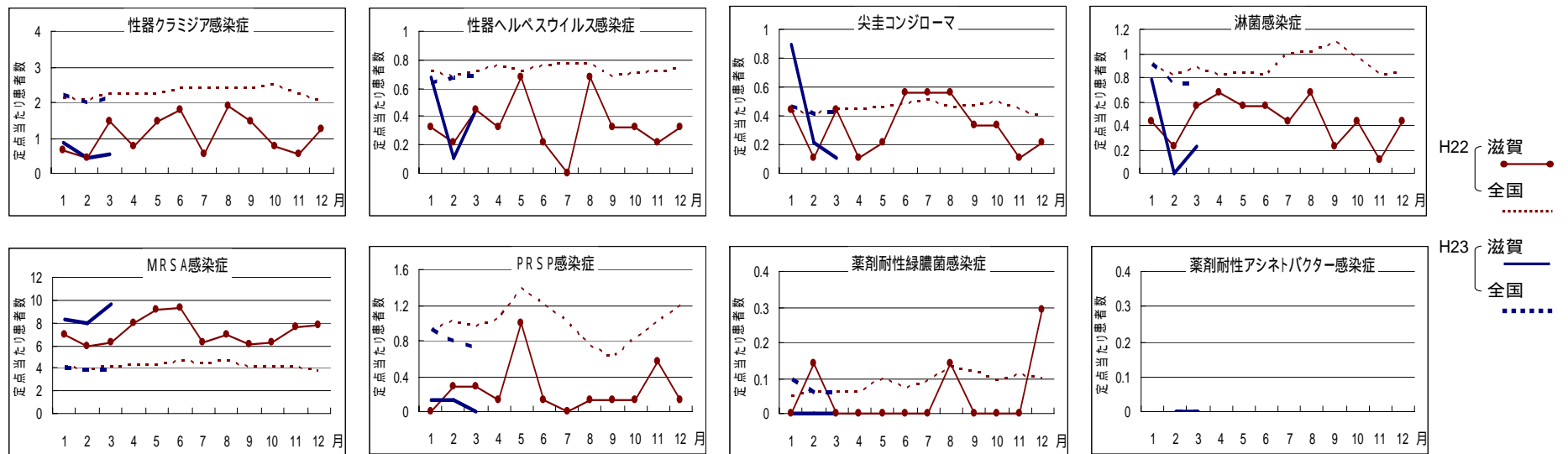
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23 年 3 月)

疾 患 名	区 分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5										17
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56										1.89
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4										11
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44										1.22
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1										11
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11										1.22
淋菌感染症	報告数	7	0	2										9
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22										1.00
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68										182
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71										26.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0										2
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0										0.28
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0										0
	定点当たり患者数	0	0	0										0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 ^(*)	報告数	-	0	0										0
	定点当たり患者数	-	0	0										0

* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。

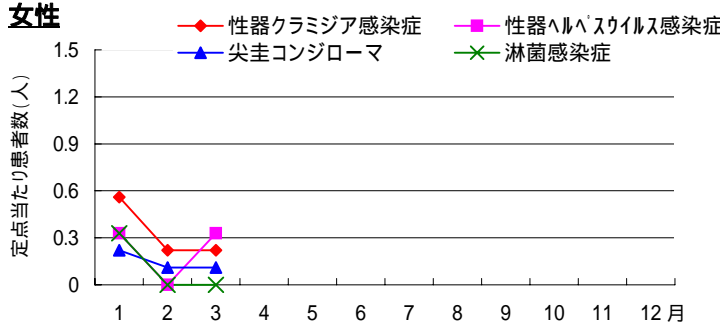
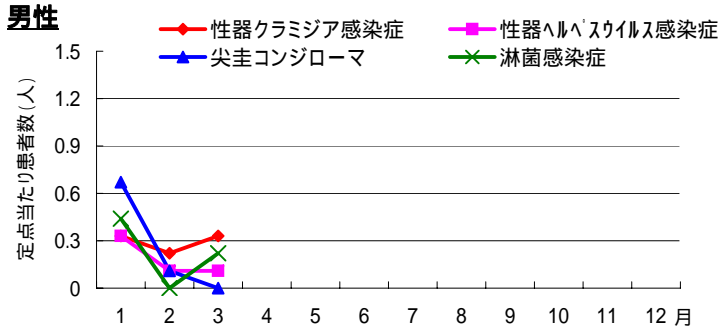


滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患は尖圭コンジローマです。また、PRSP感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は報告されていません。

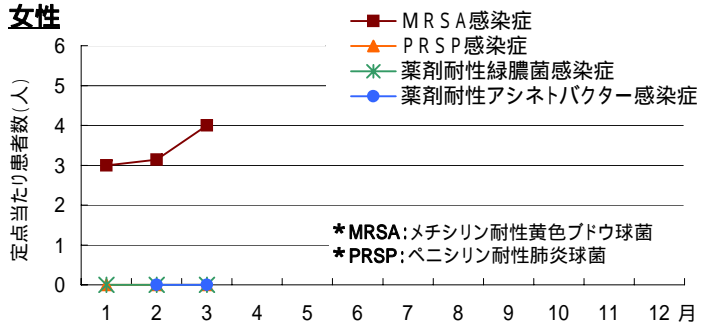
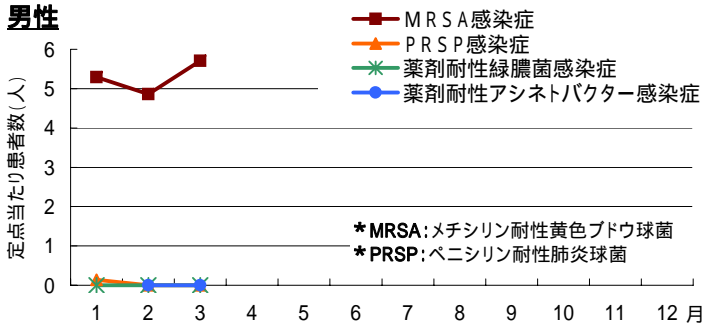
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況



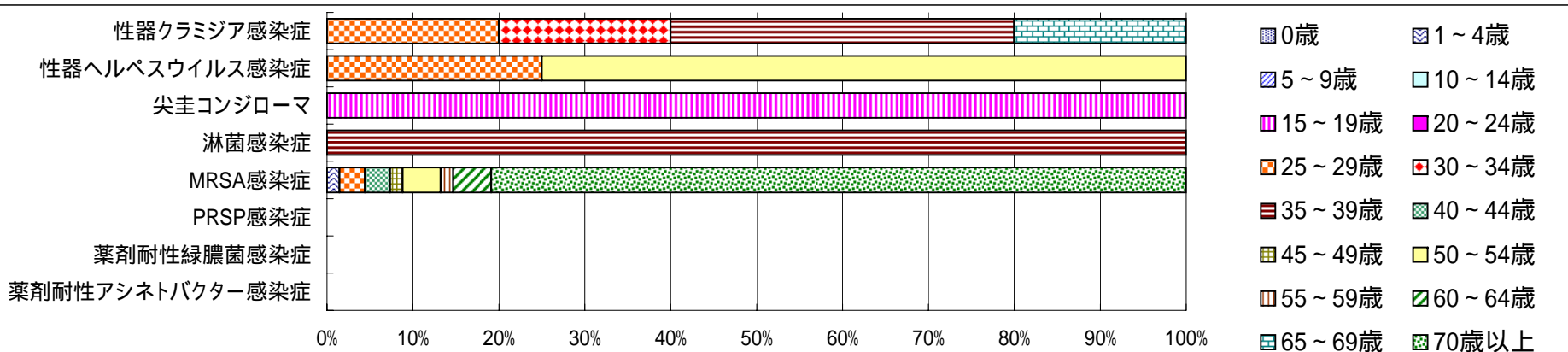
基幹定点における疾患別発生状況



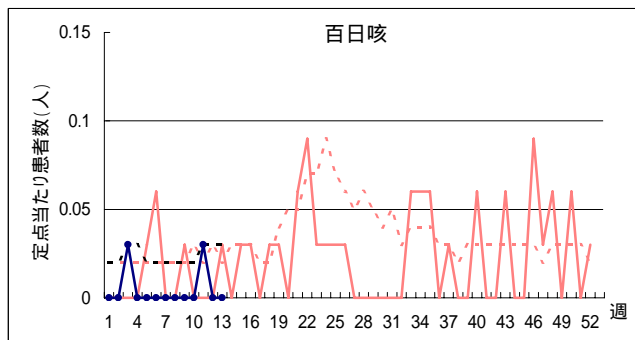
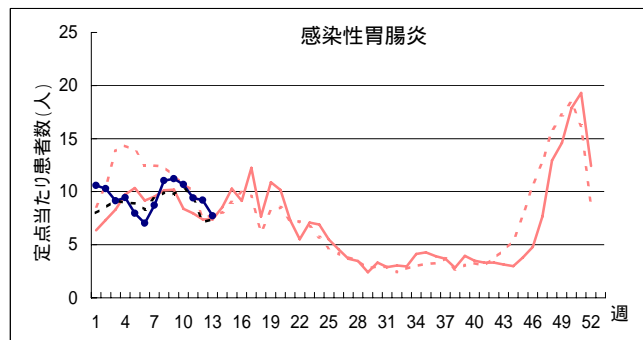
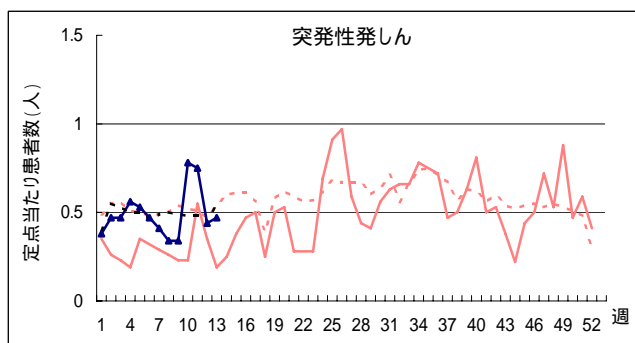
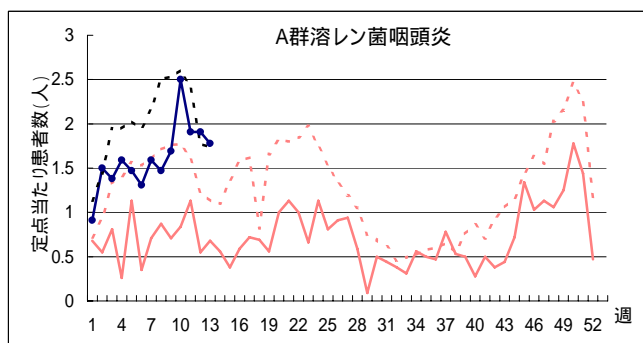
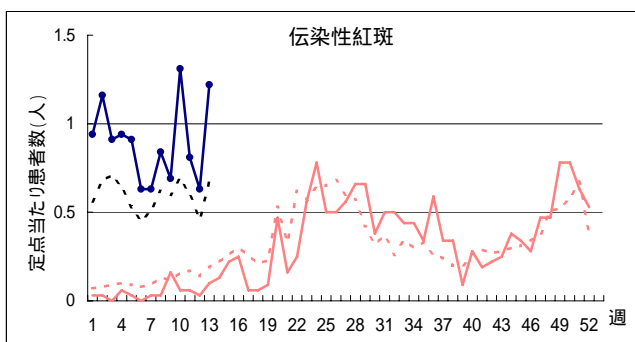
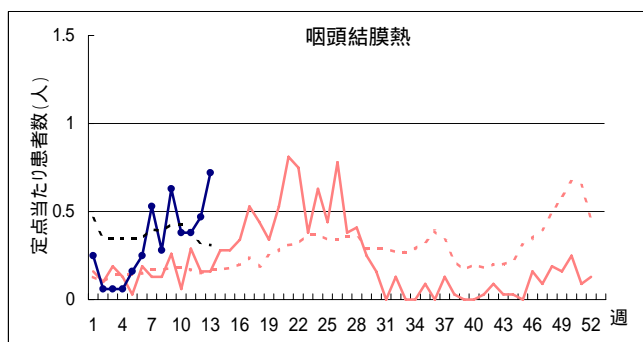
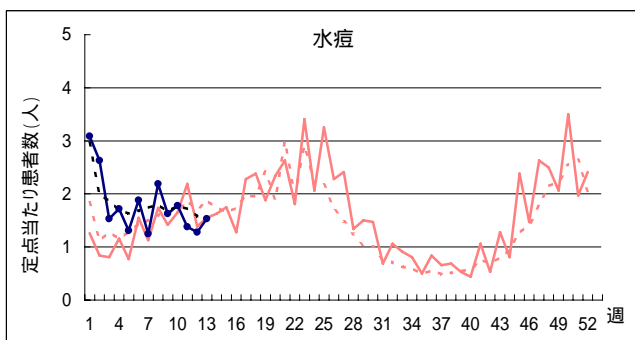
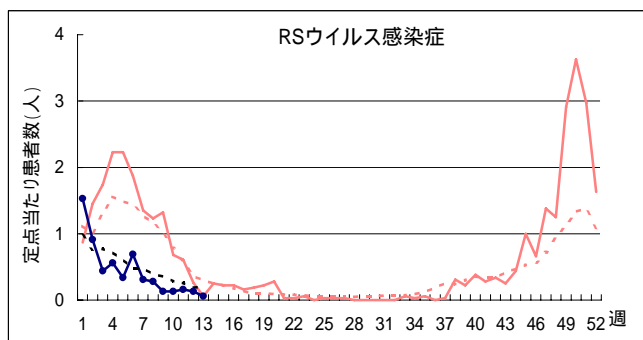
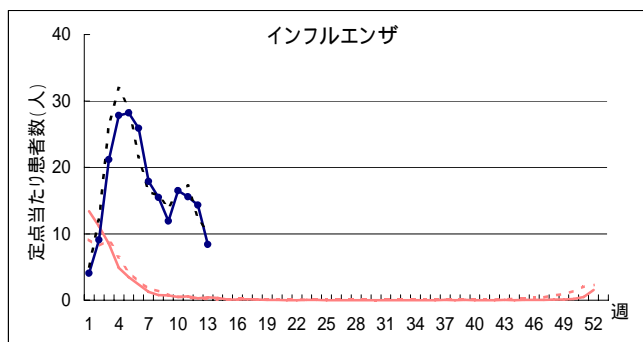
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症および淋菌感染症は男性で、性器ヘルペスウイルス感染症は女性で先月より増加しています。基幹定点疾患のMRSA感染症では、男女ともに、先月よりかなり増加しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、男性で65～69歳の年齢群から、尖圭コンジローマでは、女性で15～19歳の年齢群からの報告がありました。

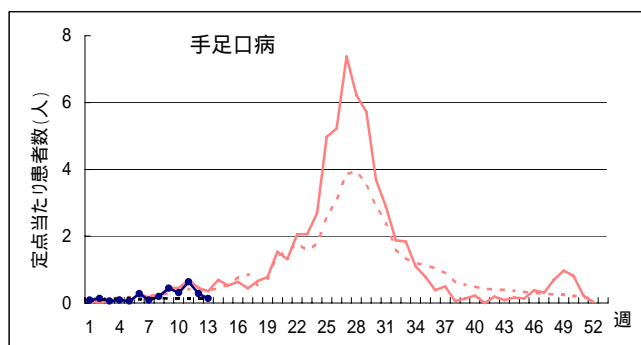
疾患別・年齢別発生状況 (H23.3)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～13週、H23.1.3～H23.4.3)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1 ~ 13 週、H23.1.3 ~ H23.4.3)



H22 〔 滋賀 ——— 全国 〕
H23 〔 滋賀 —●— 全国 〕

